

令和2年度

# 事業計画書

社会福祉法人 報恩積善会  
養護老人ホーム 報恩積善会

## 令和2年度 事業計画書

養護老人ホームを取り巻く環境としては、施設と入所者が直接契約を結ぶ、契約入所が推奨される時代になってきました。措置費運営費の権限、財源が市町村に移譲されてからは、「措置控え」が起こり、福祉事務所も契約入所を勧めてきております。空床状況みながら運用していく必要がありますが、措置が置き去りになり、本当に措置入所が必要な方に措置という形で入所して迎え入れることが難しくなります。「福祉の最期の砦」として、今後、柔軟に行政と検討していく必要があります。

報恩積善会としても養護老人ホーム、一般型特定施設入居者生活介護として入所者の方により一層のサービスを提供していきます。令和元年度は、浴槽改修に伴い、業務改善、アクティビティチームの発足、間接業務のすみ分けを行い、変化の多い1年でした。

令和2年度は、立ち止まらずに振り返り、しっかりと目の前の入所者の方をみることに重点をおきます。ケアプランと連動し個別ケアを実践し、一人一人にあった生活プランを実現していきます。入所者ファーストを合言葉に、職員目線ではなく、入居者目線で支援方法を検討していきます。

また稼働率の安定が経営の安定につながるので、行政と顔の見える関係をつくり、入所者・待機者の確保。健康管理、日々のケアの質の向上を徹底し入院者の減少に力を入れていきます。

職員の確保も今後の課題となっておりますので、採用チームで職員の採用の強化。外国人の技能実習制度を活用することにより、職員数の確保、現場の活性化を図っていきます。地域の施設と協力体制をつくり、お互いの職員が交流することで相乗効果となり、互いに刺激できるような関係をつくっていきます。

働き方改革により、長時間労働の解消・有給取得の義務、同一労働同一賃金、高齢者雇用等、法令を順守しながら働きやすい職場をつくっていきます。

報恩積善会の強みでもあります、地域との強いつながりも、会食・配食サービスやほほえみカフェ（認知症カフェ）、つしまみんな食堂（こども食堂）等を職員と共に盛り上げていき、地域の拠点施設に役割を担っていきます。

自立の方が要介護状態になっても安心して過ごせる居場所として、地域に愛される報恩積善会が継続できるよう職員ともども切磋琢磨してまいります。

施設長 田淵 由春

# 法人理念『和』

手を取りあい誰ひとりこぼれることのない大きな輪をつくる大切さのことです。

私たちは地域の一員として互いの手を携えて、誰もが和やかに生活できる社会の実現を目指します。

## 《施設運営方針》

### ○地域の中の拠点施設となるべき開かれた施設を目指す

地域の中の福祉拠点として、地域の人たちにも開放し地域福祉の向上を目指します。

### ○人生の最終コーナーを廻っている人たちのよき伴走者であれ 「してあげる介護」から「寄り添う介護」へ

小さいひとつひとつのことに他人を思いやる優しい心を込めて関わること。

## 《伴走者の心得》

### ○利用者の尊厳と尊重

丁寧な対応と同時に、相手を尊重し大切にすることをもちます。

### ○洞察力

高齢者の「現在」だけを見るのではなく、私たちと同じ澁刺とした「過去」があったことを認識し、相手の心の奥にある真の思いを察する努力をします。

### ○自分を良く知ること

自分の関わり方、介護の仕方を振り返る謙虚さをもちます。

### ○介護は相互の人間関係

入居者から教えられ、学びながら仕事を続けていることを認識します。

### ○人生の総仕上げの支援

入居者が人生の最期を私たちにゆだねていることに感謝する心をもちます。

## 《行動指針》

①私たちは、社会の一員であることを自覚し地域に貢献する取組を行います

②私たちは、入居者と共に QOL の向上を目指します

③私たちは、常に相手に感謝の言葉を伝えます。

④私たちは、互いを尊重し合いチームワークを大切にします

⑤私たちは、目標をもって仕事にチャレンジします

⑥私たちは、向上心をもち常に成長し続けます

【運営ビジョン】 自分達が入居したい施設を創る

【施設目標】 ①入所者優先 ②個別ケアの実践 ③稼働率の安定

【職員行動基準】

職員は行動指針と共に行動基準に沿った考えのもと、目標達成に向けて職務を行います。

1. 根拠ある安全性 ⇒ 2. 謙虚さ ⇒ 3. 積極性 ⇒ 4. 効率性 ⇒ 5. 個性

各部署目標と行動計画

【介護】

「尊敬の気持ちを忘れず、共に手を取り生活をサポートする」

○担当入居者ひとりひとりの生活歴を知る。

「常に向上心を持ち、心配りのできる人を目指す」

○入居者が、そのとき何を考え、感じているかを察知できる職員を育てる。

○職場内の連携、個人プレーに走らず、より良いサービスを提供できる職員を目指す。

「皆が意見を言える環境にする」

○意見は否定せず、尊重し自由に意見を言える環境をつくる。

○ミーティングで決まったことは実行し、定期的に検討する。

【看護】

「入居者の意向や感情を汲み取り心のこもった看護ケアを提供する」

○安心して医師の表現ができるよう話をよく聞き、言いやすい関係を築く。

○表現や言葉、仕草を通じ、その人の思い（ニーズ）を捉え、ペースや希望に沿ったケアを丁寧に行う。

「個々の身体・精神状態の把握に努め、異常の早期発見・対応を行う」

○主治医・多職種との連携・情報により、小さな変化も放置せず、重症化の予防・入院の軽減に繋げる。

○データのみ依存せず、的確な観察力・判断力を養い、臨機応変な対応を行う。

○共通認識のもと、統一したケアを行えるように方法や内容の共有化を図る。

【調理】

「食事で入居者の心身の健康を支える」

○嗜好調査や会話から入居者の希望を聞き、献立に反映する。

○季節感のある献立、おやつを提供。食事を楽しんでもらえるように努める。

- 栄養指導を実施する（年3回）
- おやつ作りなどを一緒にするなどして、ふれあう機会を持つようにする。
- バイキングを取りやすくできるように検討する。

「食品ロスの減少に努める」

- 残渣の多い食品は、調理法を工夫する。
- 食品の発注量を定期的に見直す（1回／4月）
- 詳しい嗜好調査をする（利用者の個人の嗜好をまとめ表にする）
- 食材の提供を工夫する。
- 献立の見直し（1回／4月）

【事務所】

- ①「毎月1日の入所率100%」（入所へつなげるフォロー体制、各所への情報提供）
  - 施設見学や問い合わせ後、電話又はメールにてその後の状況の聞き取りを行う。
  - 地域包括支援センター等へ毎月20日頃に待機状況・空き状況について連絡を行います。
  - 市内の養護老人ホームの連携を深め、情報共有を行い施設間の移動等新たな入所の窓口を創ります。またネットワーク連絡会（仮）を創りフォロー体制を整備します。
    - H29年度 821日／840日 稼働率97.7%
    - H30年度 827日／840日 稼働率98.4%
    - H31年度 829日／840日 稼働率98.6%（2/26現在）
- ②「短期入所自主事業の稼働率20%を実現」（73日／365日）
  - 津島学区及び伊島学区の民生委員との連携を深める為、出前講座やケア会議等に参加し交流を図ると共に回覧板へチラシを入れるなど広報活動を行います。
  - 安心・快適に短期入所自主事業を利用してもらう為、ショートステイ事業指定の居室について3か月に1度レイアウト変更等を行い特色ある部屋づくりを行います。
  - 地域包括支援センターへ待機状況・空き状況と同様に定期的な連絡を行います。
 

（短期入所自主事業の稼働率）

    - H28年度 43日 稼働率11.7% / H29年度 53日 稼働率14.5%
    - H30年度 53日 稼働率14.5%（西日本豪雨災害等により）
    - H31年度 30日 稼働率8.2%（2/26現在）
- ③より良い接遇を
  - ①誰に対しても「ありがとう」の言葉を伝えます
  - ②来客時は必ず立って丁寧な対応を行います
  - ③「おはようございます」、「おつかれさまでした」1トーン高く挨拶をします
  - ④2ヶ月に1回接遇について自主研修を行いより良い接遇を目指します
  - ⑤できないことを考えるより、できることから実行します

## 【調査研修関係】

- 1 会議及び研修会へ積極的に参加し、職員の資質と見識を高め共有し、入所者ケアの向上に努める。また自主的な外部研修参加に対しては、各種の助成を行い職員のスキル向上を支援する。
- 2 福祉施設研修大会においては、他施設の職員と交流を図り、現場における実践研究発表を通じて学び、積極的に取り入れ実践しサービスの質の向上を行う。また日々の取り組みを研修大会にて発表を行う。
- 3 参考図書は積極的に購入し、福祉に対する認識を養い自己の研鑽に励む。なお、参考図書は事務所カウンターの所定場所にて自由に閲覧できるようにする。
- 4 施設内での定期的な会議を実施し、報告・連絡・相談を密にすると共に、会議は学習の場として位置付け、職員の資質の向上に努める。

### ①事業計画発表会

新年度の事業計画策定に当たり、職員参加のもと意見を集約し新しい年度に向けての共有を行う会議とする。

### ②職場内研修

年間スケジュールのもと、職員のスキルアップと入所者ケアの向上を目指す場とする。

### ③職員会議

各研修会の報告や施設内研修を兼ねた会議とする。

### ④主任者会議

定期的に各部署での課題を持ち寄り検討する。

### ⑤臨時会議

早期の対応が必要な場合に、多職種で集まり対応を検討する。

### ⑥生活支援会議

生活支援計画、ケアプランの作成及び見直しを多職種にて検討する。

## ⑥自主研修

職員自ら研修課題を見つけ、小グループでの学習会をもち見識を深めていく。

## 【ケア関係】

①食事について、旬や地域の食材を使った郷土食、また入所者の希望を取り入れた食事作りを考え、入所者の日常的な体調や身体状況を把握し、ADL に合わせた食事ができるような栄養管理に努める。また楽しく、おいしく、落ち着いて食事ができる環境づくりを行う。

②看護職員による日常の健康度のチェック、服薬管理、岡山済生会総合病院嘱託医による週 1 回の往診及び昭和町健康管理センターによる健康診断、レントゲン、血液検査の実施、協力医療機関との連携、必要に応じて近隣医院への往診依頼等、健康管理に留意する。

③入所者と共に室内外の清掃及び整頓、衣類寝具等の清潔保持に努める。

④入所者が健康度や心身機能に応じて参加できるクラブ活動、施設外活動、各種行事、やりがいや楽しみを得られるアクティビティを企画し ADL 向上と QOL 充実を図る。また入所者の社会参加への働きかけや地域活動を共に実践し、役割が得られるよう支援する。

⑤入所者個々にかかわりを深め、互いに感謝しあえる関係づくりを行う共に QOL の向上を目指す。また常に自律を考え、他職種で連携してより良いケアを実践する。

⑥入所者が最後まで自分らしく安心して生活できるよう、多職種で本人や家族の声を聞き取り、思いに沿った看取りケアを実践する。(ACP の実践)

## 【対地域、対家庭】

- 1 岡山市と生活支援短期入所事業の委託契約を締結すると共に、短期入所自主事業を行い地域の高齢者への支援を行う。また地域の高齢者に対し配食、会食サービスを実施し地域福祉の向上に努める。
- 2 各学校の実習依頼については、実習生の学習の場としてだけでなく、職員の学習の場として受け入れを行う。また障害者の就労訓練実習、支援を必要とする子どもの実習、

中間的就労支援等の社会ニーズに対しても積極的に受け入れを実施する。職員は、地域に出向き専門的知識を地域の資源として伝えることに努める。

- 3 各行事には地域の高齢者や住民を招待し地域交流を深めると共に、ボランティアの育成を推進していく。また地域行事へも積極的に参加し、地域住民との交流に努める。
- 4 入所者、家族、地域住民やボランティア等誰もが訪問しやすい明るく清潔感のある施設環境を作る。また、SNS やホームページにて施設の取り組み等の情報発信に努め、年1回機関紙「ほうせき」を発行する。
- 5 年間計画をもとに地域と協働し公益的な取り組みを実施する。また職員全員で積極的に取り組める体制づくりと共に地域ニーズに応じて柔軟に実践する。
  - ・給食サービス（配食・会食）
  - ・ふれあい講座（地域サロン活動）
  - ・ほほえみカフェ（認知症・地域交流カフェ）
  - ・認知症サポーター養成講座
  - ・地域の福祉資源としての食堂及びふれあいホール等の貸し出し
  - ・福祉車両の貸し出し
  - ・幼稚園、保育園及び小中学生に対する福祉体験や施設見学
  - ・高齢者や障害者等に対する実習受入れと雇用機会の確保
  - ・つしまみんな食堂（地域及びこども食堂）
  - ・積善会祭
  - ・地域交流会 等
- 6 分野を問わず地域企業、各種団体や他法人とも交流を図り連携しながら地域ニーズへ対応する。

## 【月間行事】

### （1） 施設内活動

#### 1、給食相談

入所者と職員が個別に食事について意見交換し、QOL 向上に向けての食事作りとする。

#### 2、常会

毎月入所者と職員が一同に会し、お互いに意見を交換し快適に生活ができるよう話し合いや報告を行なう。

### 3、クラブ活動・文化活動

健康度や心身機能に応じて参加できる活動を考え、QOL 向上及び残存能力の維持向上に努める。また、地域住民の参加も呼び掛けることで地域に開かれた施設として色々な交流ができる場とする。

### 4、誕生会

入所者、職員、入所者家族や会食利用者を招待し食事を食べながら誕生者を祝福する。

### 5、売店

週 1 回売店を開き、外出ができない入所者にも買物を楽しんでもらう。

### 6、喫茶

ボランティアの協力のもと、入所者の楽しみの場としてまたボランティアや入所者同士の交流を深める場とする。

### 7、おやつ作り

入所者と調理職員との関わりを深められるよう実施する。

### 8、移動図書館

月 1 回、市立中央図書館の移動図書が来会し利用してもらう。また地域の人にも利用してもらえるよう広報を行う。

### 9、避難訓練

非常災害に備え年 2 回全体での消防避難訓練を実施し、入居者の安全確保に努める。また地震、土砂災害に対しても年 1 回の避難訓練を実施する。岡山市と福祉避難所の連携を図ると共に、地域防災について地域の各団体との連携を密にし、防災訓練などを実施する。

## (2) 施設外活動

入所者の要望にそった計画を立て、多くの入所者が参加できる活動を実施する。

- ① 花見ドライブ (3 月下旬～4 月上旬)
- ② 蓮見学 (7 月中旬)
- ③ 紅葉見学 (11 月中旬)
- ④ イルミネーション見学 (12 月中旬)
- ⑤ 初詣 (1 月中旬)
- ⑥ 外出支援 (入所者個々の要望に応じて実施)

【施設年間行事】

4月	ひな祭り お花見 花見ドライブ	桃の節句を祝ってお茶会 桜の下での祝宴 市内をドライブ
5月		
6月	大掃除	室内外の大掃除の実施
7月	地域交流会 摩利支天祭り 蓮見学ドライブ	地域住民とボランティアを招いての交流会 摩利支天王様の夏祭り 高松城跡蓮見学
8月	七夕祭り 盂蘭盆 納涼の夕べ	誕生会を兼ねて七夕祭り 盆の法要にて創設者の墓参り 地域住民を交えての盆踊り大会
9月	敬老の日 創立記念日	敬老の日の祝宴 創設者並びに関係者の慰霊祭と祝宴
10月	運動会 秋の健診 ほうせき★まつり	地域の高齢者、保育園児を招待し合同運動会 秋の健康診断の実施 入居者の為の秋祭りイベント
11月	積善会祭	地域住民の交流を目的とした秋祭り
12月	忘年会・クリスマス会 餅つき すす払い	1年間の健康を祝す忘年会とクリスマス会 1年の締めくくりとしての餅つき 室内外の大掃除
1月	新年会 初釜	新年の祝賀会 茶道クラブによる年始めの茶会
2月	節分会	年男・年女が豆をまき、1年の平安を祈る。
3月	彼岸会 健康診断	創設者と報恩積善会供養塔の墓参り 入居者全員の健康診断の実施（昭和町健康管理センター）

## 【SDGs への取り組み】

報恩積善会は地域とともに、事業活動を通じて持続可能な社会の実現を目指すべく取り組みを進めています。法人理念の「手を取りあい誰ひとりこぼれることのない大きな輪をつくる大切さ」とは、SDGsが目指す「誰一人取り残さない」という考えと一致しています。今年度も一つ一つ取り組みを実践します。

SDGs 目標	
目標 4：質の高い教育をみんなに	実習生の受け入れ等地域福祉教育を促進し、専門的スキルを持つ人材を育て雇用します。
目標 8：働きがいも経済成長も	同一賃金同一労働とやりがいをもてる場を実現します。また職業訓練や就業訓練等の受け入れを行い雇用促進と経済成長に寄与します。
目標 11：住み続けられるまちづくりを	誰もが安心して過ごせる地域を目指し、地域をつなぐ取り組みを住民と協働して実践します。
目標 12：つくる責任つかう責任	食品ロスを減少させます。またフードバンクの活動と連携し課題の解決に取り組みます。

